

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

東夷諸族の形成過程をめぐる諸問題

2. 主宰責任者氏名

森下 章司(大手前大学・教授)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

①日時:2018年12月14日 14:00~17:00

場所:人文科学研究所分館 考古・芸術共同研究室

演題等:日韓の食事様式と調理方法

講演者または報告者:長友 朋子(立命館大学・准教授)

②日時:2019年1月25日 14:00~17:00

場所:人文科学研究所分館 考古・芸術共同研究室

演題等:魏志倭人伝と天下観

講演者または報告者:東 潮(徳島大学・名誉教授)

4. 概要(400字程度)

2018年4月より「3世紀東アジアの研究」班では、『魏志』鮮卑・烏丸・東夷伝をテキストとして回読するとともに、関連する考古学的調査・研究成果を集成し、それらに対比しつつ共同研究を進めてきた。しかし、これに関連する中国東北地方や朝鮮半島の考古資料は、発掘されていても未報告のものが数多くあり、また考古資料と文献史料の対比をめぐることは、意見の対立も少なくない。本研究集会は2回にわけて開催し、その第1回は竈や案といった考古資料に着目し、中国漢代の調理器具や生活様式が、朝鮮半島の無文土器—原三国時代、日本列島の弥生—古墳時代の文化にどのような影響をおよぼしたのかを議論した。第2回は中国東北地方を中心とした東北アジア各地の考古資料に焦点をあて、『魏志』東夷伝の天下観と紀元3世紀前後の国際秩序・外交関係を含むさまざまな問題について議論をおこなった。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

①学外

森下章司(大手前大学・教授)、長友朋子(立命館大学・准教授)

学内

馬淵一輝(文学研究科)

所内

岡村秀典、稲本泰生、宮宅潔、向井佑介、高井たかね、

目黒杏子(非常勤研究員)、大谷育恵(学振 PD)

②学外

東潮(徳島大学・名誉教授)、森下章司(大手前大学・教授)、長友朋子(立命館大学・准教授)、

山本堯(泉屋博古館・学芸員)、立命館大学3回生1名、立命館大学4回生1名

学内

金宇大(白眉センター助教)、馬淵一輝、菊池望(文学研究科)

所内

岡村秀典、向井佑介、高井たかね

6.助成金の使途等

講師招聘旅費および講演謝金

7.その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

本研究集会の成果については、2019 年度以降の「3世紀東アジアの研究」班において、さらに発展的な議論をおこない、当該研究班の最終報告に反映させる予定である。